

「社会にアウトリーチする仏教」

■ 西岡 秀爾 氏（曹洞宗崇禅寺 住職・東方学院 講師）

「私の〈縁起に生きる〉活動」

私にとって「縁起に生きる」（上田紀行『がんばれ仏教！』日本放送出版協会、2004年）とは、どのような歩みであったのかを紹介してみたいと思います。

福井にある本山での修行から戻り、大阪にある寺の副住職になった翌年（2007年）、長岡西病院ビハラー病棟において初めてCPE（臨床牧会教育 / チャプレン養成）の研修に出会いました。禅の修行とは全く異なる形で、丸裸で自他に向き合うことの難しさを痛感しました。その後、何度もCPE研修を受ける中で、人前で肩肘張らずに「丸裸のまま」でいられるようになってきました。誰もが陥りがちな「こうあるべき」という理想にがんじがらめになってしまうのではなく、「いま・ここ」の「わたし」をそのまま肯定することこそが、試練に立ち向かう力となっていくことを経験しました。

さまざまな喪失に苦しむ人たちとの出会いを振り返ってみると、決して教義にもとづく対話ではありませんでした。むしろ、臨床現場の中で自らの宗教性（スピリチュアリティ）が問われ、磨かれてきています。今回は、遺族会（死別の悲しみを分かち合う会・ともしび）の活動の一端をご紹介します。

今後も、お寺の内外でさまざまな悩みや苦しみを抱える人たちとご縁をいただくこととなります。「仏教ありき」ではなく、「目の前の人ありき」という姿勢を心掛けながら、「あるべき姿」を提示するのではなく、「いまある姿」を支えるかかわりを続けてまいります。そして、これまでの縁から学んだこと（特に以下の三点）を、これからの縁にしっかりと活かして歩んでいきたいと考えています。

- (1) まずは自らの心が調っていること（「調心」）が大切であること
- (2) 基本姿勢として、「Do」からはなれ「Be」でいること
- (3) 目の前の人「嘆く場」をつくり、「嘆く力」を支えること

【講師紹介】西岡 秀爾（にしおか しゅうじ）

1976年生まれ。大阪府立大学社会福祉学部卒業。花園大学大学院文学研究科博士後期課程（仏教学専攻）単位取得満期退学。上智大学グリーンケア研究所人材養成講座（大阪）専門コース修了。関西学院大学大学院人間福祉研究科博士後期課程（人間福祉専攻）単位取得満期退学。

公益財団法人中村元東方研究所専任研究員、花園大学嘱託准教授などを経て、現在は上智大学グリーンケア研究所客員所員（非常勤講師）、東方学院講師、四天王寺大学非常勤講師、臨床仏教研究所特任研究員、花園大学国際禅学研究所客員研究員、花園大学人権教育研究センター委嘱研究員などを務める。

2006年3月より、崇禅寺（大阪市）副住職。2009年2月より、病院などで傾聴活動を開始。2011年12月より、「いのち臨床仏教者の会」（代表：谷山洋三、副代表：大河内大博）事務局長。2012年6月より、遺族会「死別の悲しみを分かち合う会・ともしび」を開催（月1回）。2023年4月より、住職に就任。法務の傍ら、スピリチュアルケア師・臨床宗教師・臨床仏教師の養成にも携わる。